

智美術館 10 周年記念

十三代・十四代今泉今右衛門 —色鍋島の粹—



1. 十四代今泉今右衛門「色絵薄墨墨はじき時計草文鉢」2007年

2012年10月6日[土] ~ 2013年1月6日[日]

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B 1F

TEL03-5733-5131 FAX03-5733-5132

<http://www.musee-tomo.or.jp>

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。この度は、当館の次回展覧会「十三代・十四代今泉今右衛門—色鍋島の粹—」展のご案内をさせていただきます。

今泉今右衛門家は、江戸時代に佐賀・鍋島藩で発展した色絵磁器である色鍋島の絵付を継承してきた陶家です。鍋島藩の藩窯で代々御用赤絵師を務め、藩窯が廃止された後は、絵付だけではなく素地から窯焼まで全工程に取り組み、高度に様式化された、気品と創造性に溢れる色鍋島の意匠を現代に伝えてきました。

十三代今右衛門(1926～2001)は、伝統に立脚しながらも、「吹墨」「薄墨」の技法を確立し、独自の文様表現に挑み、色鍋島に現代性を打ち出しました。十四代(1962～)は、今右衛門を襲名して10年、白化粧を用いる「雪花墨はじき」の技法や、新たな上絵技法「プラチナ彩」など、伝統に自らの創意を加え、現代色鍋島を貪欲に追求しています。

十四代の作品を中心に襲名後10年の軌跡を辿るとともに、十三代の代表作を合わせ、現代色鍋島の粹をご紹介します。

つきましては展覧会の概略をご案内しますので、本展を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

■ 展覧会概要 ■

- 展覧会名 十三代・十四代今泉今右衛門—色鍋島の粹—
- 会期 2012年10月6日(土)～2013年1月6日(日)
- 観覧料 一般 1,000円／大学生 800円／小中高生 500円
- 主催 公益財団法人菊池美術財団、財団法人今右衛門古陶磁美術館
- 会場 菊池寛実記念 智美術館 (〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル)
<http://www.musee-tomo.or.jp>
- 開館時間 午前11時から午後6時まで(入館は午後5時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日(10月8日、12月24日は開館)、10月9日(火)、
12月25日(火)、年末年始[12月28日(金)～2013年1月1日(火・祝)]
- 展示内容 十四代の作品を中心に襲名後10年の軌跡を辿るとともに、十三代の代表作を合わせた約50点(十四代約35点、十三代約15点)
- 関連行事 講演会、作家対談、アーティスト・トーク、ナイトミュージアム～トークライブ～、学芸員による展示解説、ミュージアムコンサート、西洋館見学会を開催

展覧会に関するお問い合わせ先:菊池寛実記念 智美術館(担当:島崎)

☎03-5733-5131 / FAX03-5733-5132

■ 展覧会内容のご案内 ■

色鍋島—今泉今右衛門家の歴史

色鍋島は、江戸時代に佐賀・鍋島藩において発展した、緻な技術と和様の意匠を特徴とする色絵磁器です。将軍家への献上や公家・大名などへの贈答のために制作されたもので、藩で窯を経営し、品質は厳しく管理され、一般に流通することはありませんでした。今泉今右衛門家は鍋島藩の藩窯で、代々御用赤絵師として色絵具の調合、絵付け、色絵の焼成を行っていました。明治維新の廃藩により 1871(明治4)年に藩窯が廃止されると、十代今右衛門は素地づくりから焼成まで色絵磁器の一貫生産に取り組むようになりますが、色鍋島の優品を完成させるまでには十代(1848-1927)、十一代(1873-1948)、十二代(1897-1975)と三代にわたる長い年月を要します。そこには、明治維新、世界恐慌、第二次世界大戦という動乱の時代に伝統技術を継承し、その発展に尽力した苦難の歴史がありました。そして 1970(昭和45)年、十二代は「色鍋島技術保存会」を結成し、翌年、同会は重要無形文化財の総合指定を受けるまでに至ります。

十三代今右衛門(1926-2001)



2. 十三代今泉今右衛門「色絵薄墨露草文鉢」1981年

伝統技術の再興は、今右衛門の色鍋島に新たな展開をもたらします。十三代は、色鍋島の伝統を継承するとともに、伝統に一作家としての個性を求めつつ、現代における色鍋島を迫りました。そして確立されたのが「吹墨」「薄墨」の技法です。「吹墨」は、初期伊万里の染付技法から想を得て、器の表面全体に青く呈色する呉須を濃淡を付けて吹き付ける技法で、白磁の白い肌よりも上絵具が映え、文様表現に効果をもたらしました。また、「薄墨」は「吹墨」を

発展させ、薄い墨色を吹き付けるもので、染付の青に赤、黄、緑の上絵具で構成するという、色鍋島の概念を打ち破る大胆な発想でした。文様表現における効果も吹墨より高く、品格と柔らか味のある薄墨は十三代独自の技法として高く評価されています。

十三代は 1989(平成元)年に個人として重要無形文化財「色絵磁器」保持者に認定されました。

十四代今右衛門(1962-)



3. 十四代今泉今右衛門
「色絵雪花墨色墨はじき四季草花文花瓶」2005年

十四代は、襲名後 10 年、色鍋島の伝統の継承と、現代の色鍋島のあるべきようを求めて、食欲に挑戦を続けています。白抜き技法である「墨はじき」の研究を重ね、染付の代わりに白化粧を用い、化粧土の白地に白磁の白が浮かび上がる「雪花墨はじき」を生み出しました。また、新たな上絵技法である「プラチナ彩」により、作品の中に色だけでなく光を取り込みました。墨はじきの密やかで奥深い美しさとプラチナ彩の上品な華やかさは、十四代の意匠として高い評価を受けます。「伝統という仕事は、技術を継承していく中で、その時代のものを作る『新しい仕事』である」という十三代の精神を受け継ぎ、力強く歩み続ける十四代。襲名後 10 年の作品から、現代における色鍋島をご覧ください。



4. 十四代今泉今右衛門
「色絵墨色墨はじき翡翠香炉」2011年

■ ■ 関連行事 ■ ■

■ 講演会 「伝統から創造、そして発展へ—十三・十四代今泉今右衛門—」

講師: **三輪嘉六 氏** (九州国立博物館館長)

日時: 11 月 10 日 (土) 15 時～ 会場: 美術館展示室において

■ 作家対談

講師: **八代清水六兵衛氏、十四代今泉今右衛門氏**

日時: 11 月 17 日 (土) 15 時～ 会場: 美術館展示室において

歴史ある陶家において、伝統を継承するとともに一作家として活躍されるお二人にお話を伺います。

■ アーティスト・トーク

日時: 12 月 15 日 (土) 14 時～ 会場: 美術館展示室において

十四代今泉今右衛門氏によりギャラリー・トークを開催いたします。

■ ナイト・ミュージアム ～トークライブ～

閉館後の展示室で作品を身近に感じていただきながら、トークイベントをお楽しみください。

日時: 11 月 18 日 (日) 18 時 30 分～ (開場 18 時 15 分) 会場: 美術館 展示室において

出演: **山川静夫氏 (エッセイスト、元 NHK アナウンサー)**

市川團十郎氏 (歌舞伎役者)

十四代今泉今右衛門氏

定員: **60 名様** (予約制 TEL03 - 5733 - 5131 受付は 9 月 19 日 [水] より)

参加費: 5,000 円 (観覧料、ワンドリンクを含む。当日観覧券をお持ちの場合は 4,000 円)

■ ミュージアムコンサート in TOMO

日時: 10 月 26 日 (金) 18 時 45 分～ (開場 18 時 30 分) 会場: 当館 展示室において

定員: **40 名様** (予約制 TEL03 - 5733 - 5131)

参加費: 3,000 円 (観覧料、ワンドリンクを含む。当日観覧券をお持ちの場合は 2,000 円)

閉館後の美術館展示スペースにてクラシックコンサートを開催します。

作品と音楽のハーモニーをお楽しみください。

出演: **平野悦子 (ヴァイオリン)、高橋梓 (ヴィオラ)**

■ 学芸員によるギャラリートーク 各土曜日 14 時より

10 月 20 日 / 11 月 3 日、24 日 / 12 月 1 日、22 日 / 2013 年 1 月 5 日

■ 西洋館見学会 (予約制・定員 20 名様 お一人様 8,000 円※)

10 月 27 日 (土) / 12 月 8 日 (土) 各日 11 時より

当館敷地内の西洋館 (登録有形文化財) の通常非公開の内部を、展覧会の期間中に特別公開いたします。※西洋館のご案内 (建築家 篠田義男氏による)、美術館観覧料 (学芸員の解説付)、レストラン、ヴォワ・ラクテでのランチを含む。

■ 略歴

13 代今泉今右衛門 (1926-2001)

- 1949 東京美術学校工芸科卒業。
- 1957 日展入選 (～1959)。
- 1962 日本伝統工芸展初入選。
- 1965 日本伝統工芸展 日本工芸会会長賞、以後受賞多数。日本工芸会正会員推挙。
- 1975 13 代今右衛門を襲名。
- 1976 日本陶磁協会賞。
色鍋島今右衛門技術保存会代表就任。
文化庁より重要無形文化財の総合指定を受ける。
- 1981 日本陶芸展最優秀賞 (秩父宮賜杯)
- 1988 毎日芸術賞。第 1 回 MOA 岡田茂吉大賞。
- 1989 重要無形文化財「色絵磁器」保持者に認定。
日本陶磁協会金賞。
- 2000 日本工芸会副理事長に就任。
- 2001 10 月 13 日逝去。

14 代今泉今衛門 (1962-)

- 1985 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科 (金工専攻) 卒業。福岡株式会社 入社。
- 1988 鈴木治氏に師事。
- 1990 父・十三代今右衛門のもと家業に従事。
- 1996 日本伝統工芸展初入選 (～2011)。
- 1997 日本陶芸展入選 (～2011)。
- 1998 日本伝統工芸展 工芸会会長賞。正会員推挙。
- 2002 十四代今泉今右衛門を襲名。
色鍋島今右衛門技術保存会会長就任。
- 2004 日本伝統工芸展 東京都知事賞
- 2008 MOA 岡田茂吉賞工芸部門 優秀賞。
第 2 回智美術館大賞 現代の茶陶 (智美術館 / 同第 3 回)
- 2009 紫綬褒章。
- 2012 日本陶磁協会賞。

■ 貸出し画像

※掲載にあたっては、貸出し申込書リストのキャプションを表記のとおり入れてください。



5. 十三代今泉今右衛門
「色絵薄墨珠樹文蓋付瓶」1987 年



6. 十四代今泉今右衛門
「色絵薄墨墨はじき柘榴文蓋付瓶」2011 年



7. 十三代今泉今右衛門
「色絵吹墨玉すだれ文鉢」1993 年



8. 十四代今泉今右衛門
「色絵墨色墨はじき万年青文額皿」2007 年

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館 (担当：島崎、花里、高田)

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX: 03-5733-5132

●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話:	ファックス:
E-MAIL:	

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:	
	発行日:	発売日:
TV ラジオ	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

●画像貸出リスト ※キャプションには作者/作品名/制作年/(撮影者)を必ず入れてください。サイズの単位はcm。

希望作品に☑	作品キャプション
<input type="checkbox"/>	① 十四代今泉今右衛門「色絵薄墨墨はじき時計草文鉢」2007年、高 15.0 径 46.0
<input type="checkbox"/>	② 十三代今泉今右衛門「色絵薄墨露草文鉢」1981年、高 21.8 径 36.5
<input type="checkbox"/>	③ 十四代今泉今右衛門「色絵雪花墨色墨はじき四季草花文花瓶」2005年、高 35.0 径 33.2
<input type="checkbox"/>	④ 十四代今泉今右衛門「色絵墨色墨はじき翡翠香炉」2011年、高 13.6 径 10.4×17.0
<input type="checkbox"/>	⑤ 十三代今泉今右衛門「色絵薄墨珠樹文蓋付瓶」1987年、高 50.0 径 29.4
<input type="checkbox"/>	⑥ 十四代今泉今右衛門「色絵薄墨墨はじき柘榴文蓋付瓶」2011年、高 48.3 28.5×30.5
<input type="checkbox"/>	⑦ 十三代今泉今右衛門「色絵吹墨玉すだれ文鉢」1993年、高 12.6 径 45.5
<input type="checkbox"/>	⑧ 十四代今泉今右衛門「色絵墨色墨はじき万年青文額皿」2007年、高 7.5 径 33.0

●読者プレゼント用チケット希望： 5組 10名様 10組 20名様